

巻 頭 言

私立医科大学の源流、済生学舎の歴史と役割



日本私立医科大学協会 会長
 学校法人順天堂 理事長

小 川 秀 興

Hideoki OGAWA

長谷川泰（1843-1912）が明治9（1876）年4月に本郷元町に創立した東京済生学舎は、明治36（1903）年8月29日に突然、廃校宣言をもって閉鎖された。27年間にここに学んだ生徒総数21,000有余、卒後、医術開業試験に合格して医師となった者は8,000人余を数えた。その数は政府が取り組んだ官公立の西洋医養成を超える数であり、全国に西洋医学を速やかに普及するのにきわめて大きな貢献をしたといわれる。

長谷川泰は幕末、江戸より佐倉に移った順天堂（西洋医学塾）で佐藤尚中に学び、明治になってからは尚中が最高責任者に任ぜられた大学東校（東大医学部前身）で教員として学生の指導にあたった。このころ尚中は西洋医学を全国に速やかに普及させるために、全国から集まった学生に3年制と5年制を並立させて教育を行い、大学東校を全国の医療統括の場とする計画を立てていた。しかし、明治4年に就任したドイツ人教師は、日本の国情を無視して、尚中の計画を否定した。尚中は大学東校・医学校を去り、東京に順天堂を再設し、大学東校・医学校を退学させられた医学生の教育を行った。明治6・7・8年、尚中が基礎・臨床の教育を行ったとの卒業証書が残る。その後、病に倒れた尚中は、ドイツ留学から帰国したばかりの養子佐藤進に順天堂を継がせて臨床を中心とする医学教育を続行させた。初期の医学教育は進と同門であった長谷川泰にゆだねたのであろう。済生学舎の創業地は順天堂に隣接する。済生学舎ははじめ付属病院がなかった。野口英世も吉岡彌生も多くの生徒が順天堂医院で臨床教育をうけて、医術開業試験に望んだのであったが、順天堂・東大卒教師が揃っていた総合病院順天堂医院は、済生学舎の生徒に限らず、全国各地の医師の臨床、特に卒後教育の場になった。

明治30年代まで、文部省の私立医学校に対する規制はほとんどなかったが、しだいに官公立医学校の卒業生が増えてくると、政府は私立医学校を規制する動きを見せてきた。このころ済生学舎は男女共学を非難されていた。政府の動きを察知した長谷川泰は、明治33（1900）年に女子学生の入学中止。それを知った吉岡彌生が女医の未来を案じて、東京女医学校を創設した。東京女子医大の始まりである。

明治36（1903）年、政府はいよいよ私立医学校に規制をかけてきた。私立医学専門学校を認めると同時に多くの医学校に改善を求めた。東京慈恵会医学専門学校が最初に認可されたが、済生学舎は突然、自ら廃校宣言した。その時、行き先を失った約1,000人の在校生は、東京慈恵会医学専門学校に転校したり、済生学舎の教師等が開いた医学講習所などに学んだ。それが日本医科大学の始まりである。

政府は医学専門学校の質の向上を求めて、文部省指定制度を発足させた。文部省指定校の学生は医術開業試験を受けずに卒業出来た。日本医学専門学校は学生と契約した期限内に文部省指定になれなかった。それに激怒した学生がストライキをしたが、大正7年に一齐退学した学生、教官たちが中心になって開校したのが東京医科大学のルーツである。この時、順天堂院長の佐藤達次郎が校長となり、順天堂が臨床教育の場となり医局員が東京医学専門学校の教授に加わった。

これが今日の私学の雄、東京医科大学である。従って、東京医科大学と順天堂の縁は100年に近い。

（本稿は、日本医史学会の酒井シヅ理事長の校閲を戴きました。）

小川 秀興（おがわ ひでおき）OGAWA, Hideoki

略 歴 昭和41年 順天堂大学医学部 卒業、インターン、生化学教室を経て皮膚科学入局
 昭和56年～平成16年 順天堂大学医学部 皮膚科学 主任教授
 平成6年 順天堂大学医学部附属順天堂医院 院長補佐
 平成8年～平成12年 順天堂大学医学部 医学部長
 平成12年～平成20年 順天堂大学 学長
 平成16年～ 学校法人順天堂 理事長

研究活動、国際協力など

昭和51年～ 日・タイ两国政府主催、アジア・太平洋諸国の皮膚科専門医育成事業の責任者としてタイ国立皮膚病研究所（バンコク）を舞台に現在まで30カ国750名以上の人材を皮膚科・性病科・ハンセン病科専門医として育成
 平成4年 勲2等王冠勲章（Knight Commander）授与（タイ王国）
 平成6～9年 国際医真菌学会 副理事長
 平成6～11年 国際皮膚科学会 副理事長
 平成7～10年 日本研究皮膚科学会 理事長
 平成8～14年 厚生省 特定疾患 皮膚結合組織研究班・四班総合班長
 平成10～20年 文部省 私立大学学術フロンティア推進拠点選定事業
 順天堂大学大学院医学研究科アトピー性疾患研究センター長
 平成12～18年 日本医真菌学会 理事長
 平成13～17年 厚生労働省 疾病対策部会・難病対策委員会委員長
 平成15年 第102回日本皮膚科学会総会・学術大会 会頭
 平成15～20年 文部科学省 私立大学ハイテク・リサーチ・センター整備事業
 順天堂大学大学院医学研究科環境医学研究所長
 平成17～20年 文部科学省 私立大学ハイテク・リサーチ・センター整備事業
 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科スポーツ健康医科学研究所長
 平成17年～ 財団法人医学教育振興財団 常務理事
 平成19～20年 文部科学省 私立大学ハイテク・リサーチ・センター整備事業
 順天堂大学大学院医学研究科スポーツロジーセンター長
 平成19年～ 第28回日本医学会総会 副会頭（2011年予定）
 社団法人日本私立医科大学協会 会長
 平成21年～ 文部科学省中央教育審議会 委員
 厚生労働省医道審議会 委員
 第17回国際人獣真菌学会総会 会頭

学会関連（名誉会員、名誉教授）

韓国皮膚科学会、中華医学会、米国皮膚科学会（ADA）、英国皮膚科医協会（BAD）、独国皮膚科学会（DDG）、米国研究皮膚科学会（SID）などの名誉会員。
 米国デューク大学、中国第四軍医科大学、中国北京大学、中国四川大学、中日友好医院などの名誉教授。

平成21年10月1日現在